

バイオ系のキャリアデザイン

就職支援 **OG OB** インタビュー編

Interview ①

シスメックス株式会社 ICH ビジネスユニット
免疫・生化学プロダクトエンジニアリング本部事業企画グループ
岡澤 貴裕



出身大学・卒業年度：岡山大学大学院自然科学研究科 2008年 博士後期課程修了
博士論文タイトル：T細胞依存性抗体応答における単一細胞レベルでの胚中心B細胞選択機構の解析

「現在の仕事について」

◆担当職務

免疫血清検査分野の診断薬に関する市場調査と企画立案、アライアンス先との交渉業務。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

① 2008年4月（入社）～2013年3月：研究職

関節リウマチの新規診断法の開発。

② 2013年4月～現職：開発企画職

免疫血清分野の診断薬に関して、新しい検査項目の情報収集、市場調査、新規試薬開発に関する企画立案、アライアンス企業との交渉業務など。

◆そこでのやりがい

① 大学病院との共同研究を通じて、関節リウマチ患者様の検体を提供いただき、新しい検査法の開発研究を行いました。残念ながら、まだ新しい検査法の確立には至っていませんが、新しい知見も得られ、研究成果が今後の開発の一助になることを期待しています。

② 新規項目の情報収集、市場調査、企画書立案、アライアンス企業との交渉業務など、さまざまな業務に携わっているため、学ぶことが多く大変ですが非常に充実しています。

◆現在の会社・組織（アカデミアを含む）の魅力

検査という分野を通じて、人々の健康に貢献できていると実感できるところです。

◆現在の就職を決めた理由

ものづくりに携わりたいと考え、企業への就職を希望しました。現在の会社は血液検査装置・試薬の開発を行っており、これまでの知識と経験を活かして、人々の健康に貢献できると感じたことが就職を決めた理由です。

◆将来設計（描けるキャリアパス）

研究開発から商品企画、それ以降の販売戦略、知的財産に関する業務など、商品化までの一連の流れを理解し、

担当できるようになりたいと考えています。

◆挑戦したいと思っていること

これまで経験した研究職、開発企画職以外の職種、具体的には知的財産に関する業務にも携わってみたいと考えています。

◆社会人として一番感動したこと

自分が携わった製品が世の中に出て行き、また実際の現場でお客様に使用していただいているのを目にした時です。

◆仕事のプロになるコツ

仕事に対して、何かしら自分なりのこだわりを持って望むことです。「こだわり＝わがまま」にならないように、日頃からコミュニケーションをとることも重要だと考えています。

◆博士力、どこで発揮していますか？

業務を進めていく上での論理的思考、プレゼンテーション、最新の情報を収集・理解し、それを分かりやすく人に伝えるなどの部分で、これまでの知識と経験を活かすことができていると感じます。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

もちろん生活のためという理由もありますが、何か人の役に立ちたいと考えているからです。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族の幸せのためです。

◆ワークライフバランスで工夫していること

できる限り、家には仕事は持ち帰らないようにしています。もちろん、そのために残業が増えてしまっただけは元も子もないので、優先順位を付けて、できない部分は次の日に計画的に繰り越すなどの対応を心がけています。

◆現在の夢

これまでにない、まったく新しい有用な検査項目の企画開発を担当し、世の中に送り出すことです。

◆将来の展望

さまざまな職種を経験して、幅広い分野で活躍できるようになりたいと考えています。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること

社会人になるとまとまった時間が取りにくくなるため、もっとさまざまなことにチャレンジしておけばよかった

と思います。一見、まったく役に立ちそうにないことでも、思わぬところで役立ちます。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

私もそうでしたが、理系の方々は、就職を希望される際には研究職、開発職への想いが強く、なかなかその他の選択肢を選べないと思います。研究開発にこだわることも一つの道ですが、少しだけ広い視野を持って見ていただければ、自分が活躍できる分野は他にも必ず見つかると思います。

連絡先 E-mail: Okazawa.Takahiro@sysmex.co.jp

Interview ②

Spiber 株式会社研究開発部門 (チームマネージャー)

佐藤 健大

出身大学・卒業年度：名古屋大学大学院 理学研究科 生命理学専攻 2005年度 博士課程後期修了

博士論文タイトル：Comparison of the protein unfolding pathways between mitochondrial protein import and atomic force microscopy measurements



「現在の仕事について」

◆担当職務

タンパク質を利用した新素材開発のための基礎研究および研究開発チームのマネジメント。

◆現在までのキャリアパスとその配属での仕事内容

博士号取得後、アメリカでポスドクとして細胞内における膜タンパク質の輸送と構造形成のメカニズムの研究を行っていました。就職のため帰国し、タンパク質素材の性能向上や高機能化のための加工法の開発を行っています。

◆そこでのやりがい

これまで学んできたタンパク質科学の知識や技術を活かして、石油依存社会からの脱却という夢のある大きな目標に挑戦できること。

◆現在の会社の魅力

新しい会社であり、挑戦し成長できるチャンスがたくさんあり、志高い仲間とともにエキサイティングな研究テーマに取り組めること。

◆現在の就職を決めた理由

基礎科学である自分の知識や技術を存分に活かすことができる企業があるとは思っていなかったの、是非と

も就職して研究成果を社会に役立てたいと思ったからです。

◆将来設計 (描けるキャリアパス)

タンパク質新素材の高機能化を達成しながら、タンパク質でなければ実現できない商品を開発し、新市場の開拓をしていきたいと考えています。

◆挑戦したいと思っていること

人工タンパク質をデザインから着手し、新規事業を立ち上げることです。

◆社会人として一番感動したこと

一流メーカーの生産システムや品質管理の現場を目の当たりにしたこと。

◆社会人として一番困難だったこと & どう乗り越えましたか

常に成果が要求されることですが、アウトプット思考になることで乗り越えています。

◆仕事のプロになるコツ

業務の優先順位を考慮して納期を守り、社会とのつながりや会社と個人の成長を意識してアウトプットを出すこと。

◆博士力、どこで発揮していますか？

職場の研究現場におけるすべてです。他には、アカデミアでの人脈を活かした情報収集や大学との共同研究のマネジメントなどの場面でも役立っています。

「人生について」

◆何のために働くのですか？

人生を楽しく、面白く、熱くするため。
そのためにも、やりがいがあるのはもちろんのこと、業務が社会に貢献していることを仕事を通して実感するのは重要だと思っています。

◆ご自分にとって、お金を稼ぐ意味

家族が幸せに暮らすこと。

◆ワークライフバランスで工夫していること

なるべく家に仕事を持ち帰らず週末は子供と色んなことに挑戦する。

◆現在の夢

世界を驚かせる商品を開発すること。

◆将来の展望

タンパク質素材を広く普及させるだけでなく学術分野としても確立させること。

「後輩へ」

◆学生時代にやっておいたらよかったと思えること
高校時代に何もかも適当に中途半端にこなしていたことを後悔しています。失敗しても成功しても最後まで全力でやりきることが必ず人生の糧になると思います。

◆その他なんでも、後輩に伝えたいこと

意外な会社で皆さんの技術が必要とされていることがあります。気になった会社があれば、ホームページを見ただけで諦めず、説明会やOB訪問、学会での立ち話など面談の機会をさぐってみてください。ストーリー（きっかけ、思い、できること）ができていれば、良いマッチングにつながると思います。

連絡先 E-mail: takehiro_sato@spiber.jp



日本酒の科学 水・米・麴の伝統の技

和田美代子 著，高橋俊成 監修

320ページ，本体1,080円（税別），講談社

2013年12月、「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的に和食が注目される中、海外での日本人人気も高まっている。一方、国内では日本酒の消費が低迷しているが、ここに来て大手蔵元の新たな取組みや、女性杜氏の活躍、地方の蔵元のこだわりの酒造りなどを紹介する記事やテレビ番組が増え、日本酒が再びクローズアップされている。

本書は、日本酒の全体像を造りの観点からポイントを押さえて解説したものである。特に伝統的な「生酛造り」について、ページ数を割いて科学的見地から分かりやすく説明されており、監修にあたった菊正宗酒造株式会社ならではのこだわりも感じ取ることができる。全8章から成り、米や水といった原材料や、活躍する微生物について図表や写真を織り交ぜながらコンパクトに解説されており、醸造を学ぶ学生の入門書としても適している。加えて、「固体培養でのみ発現する麹菌遺伝子の発見」や、「清酒酵母が高濃度のアルコールを生産できるしくみ」など、最近の学術的知見も随所で紹介されており、日本酒通読者の知的好奇心も十分に満たしてくれる内容である。最終章では「日本酒と健康」と題し、「酒は百薬の長」たるゆえんについても取り上げられており酒好きにはありがたい。

本書を片手に、國酒である日本酒をじっくりと味わってみてはいかがだろうか。

（大関株式会社 幸田 明生）